

【技術の名称】 鉄建式高流動化コンクリート	性能証明番号：GBRC 性能証明 第19-01号 性能証明発効日：2019年4月10日
	【取得者】 鉄建建設株式会社

【技術の概要】

本技術は、レディーミクストコンクリート工場であらかじめ練り混ぜられ、トラックアジテータで荷卸し地点まで運搬されたコンクリートに、流動化剤（増粘剤一液タイプ）を添加し、トラックアジテータのドラムを回転させることによって流動性を増大させ、高流動化コンクリートを製造するものである。流動化剤（増粘剤一液タイプ）を使用することで、一般的なセメント量である普通コンクリートの場合でも良好な自己充填性と分離抵抗性を有する高流動化コンクリートの製造が可能となる。

【技術開発の趣旨】

CFT 充填コンクリート、免震基礎コンクリート、大口径杭コンクリート等では、スランプ 21cm を超え、かつ、流動性や分離抵抗性に優れたコンクリートが必要となる場合が多い。これらのコンクリートの調合管理強度は 45N/mm² 以下であり、呼び強度としては JIS A 5308 で規定されている普通コンクリートの範囲にあるが、スランプフローで管理する中流動コンクリートや高流動コンクリートが必要となるため、建築基準法第 37 条第二号による大臣認定コンクリート（指定強度（調合管理強度）が 45N/mm² を超える高強度コンクリート等）や、施工者の責任のもと、流動化剤を現場添加して製造した流動化コンクリートを使用している。

近年では流動化剤（増粘剤一液タイプ）が開発されており、一般的なセメント量である普通コンクリートの場合でも、良好な自己充填性と分離抵抗性を有する高流動化コンクリートを製造することが可能となっている。このような背景のもと、申込者の施工物件における流動化剤（増粘剤一液タイプ）を添加した高流動化コンクリートの利用を目的として、製造技術及び品質管理方法の統一化を図るものである。

【性能証明の内容】

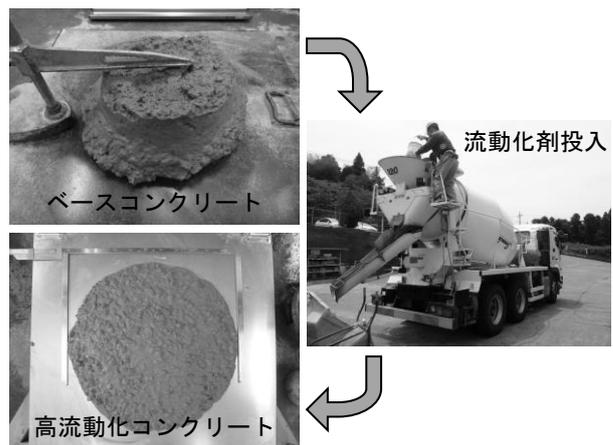
本技術についての性能証明の内容は、以下の通りである。

申込者が提案する「鉄建式高流動化コンクリート 製造・施工マニュアル」に従って製造された高流動化コンクリートは、以下の性能を有する。

- (1) 材料分離を生じない。
- (2) 目標スランプフローは 45cm、50cm、55cm で、管理幅は±7.5cm の範囲を満足する。
- (3) 高流動化コンクリートの圧縮強度は、調合管理強度（呼び強度）を満足する。

表 高流動化コンクリートの適用範囲

		高流動化コンクリート		
		スランプフロー		
スランプ	調合管理強度 (呼び強度)	45cm	50cm	55cm
15cm	27N/mm ²	○	-	-
	30N/mm ²	○	-	-
	33N/mm ²	○	-	-
	36N/mm ²	○	-	-
	40N/mm ²	○	-	-
	42N/mm ²	○	-	-
18cm	45N/mm ²	○	-	-
	27N/mm ²	○	-	-
	30N/mm ²	○	-	-
	33N/mm ²	○	○	-
	36N/mm ²	○	○	-
21cm	40N/mm ²	○	○	-
	42N/mm ²	○	○	-
	45N/mm ²	○	○	-
	33N/mm ²	○	○	-
	36N/mm ²	○	○	○
	40N/mm ²	○	○	○



【本技術の問合せ先】

鉄建建設株式会社 研究開発センター 担当者：川又 篤
 〒286-0825 千葉県成田市新泉 9-1

E-mail：atsushi-kawamata@tekken.co.jp
 TEL：0476-36-2355 FAX：0476-36-2380